

<インターゼミ 多摩学班 夏合宿報告>

2018 多摩学

-100年時代を幸せに過ごす社会システムの要件とは-

学部生：遠藤、小川、川上、馬場、神尾

大学院生、OBなど：山口、菊永 松井

教員：丹下先生、荻野先生、初見先生

本日の報告内容

- 1 多摩学2018の研究進捗状況
- 2 4つの視点の進捗状況
- 3 今後のスケジュールとまとめ
- 4 文献リスト

1. 多摩学2018の 研究進捗状況

多摩学2018の研究計画まとめ

リサーチ
クエスト

100年時代を幸せに過ごす社会システムの要件とは

フィジカル = 健康維持×未病対策

コミュニティ = 都市郊外×持続可能コミュニティ

ワーク = マッチング×選択肢

ファイナンス = 金融リテラシー×生きがい

2. 視点 1: フィジカル班の 研究進捗状況

フィジカル班の進捗状況

リサーチクエスチョン

シニアの方々が身体の健康を保つためにはどうしたら良いか



フィールドワークの実施

フィールドワーク先としてシニア層の健康維持で自治体連携を行っているRIZAPへヒアリング調査を実施

ライザップは、マンツーマンスタイルを中心としたRIZAPメソッドにより、日本の豊かな長寿社会の実現に向けた「健康寿命の延伸」に取り組んでおり、2020年までに1000万人体験を目指す「RIZAP1000万人健康宣言」を発表

Field Work: ライザップグループ

概要 マンツーマンスタイルのRIZAPメソッドを6年前に開始。日本の豊かな長寿社会の実現に向け、2020年までに1000万人体験を目指す「RIZAP1000万人健康宣言」を発表

ポイント

健康セミナー実施(グループセミナー)

- ・ 法人向け：~50名まで、講義や食事指導 (250社, 3万人実施)
- ・ 自治体向け：去年から実施 (現在10自治体程度で今後拡大予定)
 - 1) ~50名のグループセミナー
 - 2) ~20名の3カ月体験セッション → **約9割で体脂肪率3~5%↓の効果**

自治体

- 問題意識はあるが、予算化に苦労 (健保・国保等での予算化を模索)
- **公募募集で健康意識の高い人が参加** (それ以外の人への認知が課題)
- トレーニング+食事改善で家族への改善波及もあり
- セッション終了後も**自発的にサークル活動で継続**するケースもあり

フィジカル班の方向性

FWか
らの
示唆

- ・ **正しいトレーニング方**で、健康維持を図る事が**重要**
- ・ 無料では継続せず成果が出ない、**本気になるには自己投資が必要**
- ・ なぜ健康を保ちたいのか、**大切なのは目的** (健康は手段)



- ・ 健康維持のための**目的意識**をどう高めてゆくか、や**健康意識**の高い人以外へどのように**アプローチ**するかが**課題**と判明
- ・ **目的意識と成果が伴うと、自律的なサークル活動等へ発展**してゆく可能性もある為 (実例あり)、どのような**施策**が有効であるかを継続して調査してゆく

3. 視点2:コミュニティ班の 研究進捗状況

コミュニティ班の進捗状況

リサーチクエスト

持続可能なコミュニティはどのようにすれば作ることができるのか



2回のフィールドワークを行った

6月27日（水） 東京都健康長寿医療センター研究所
社会参加と地域保健研究チーム 藤原佳典教授、村山陽研究員へのヒアリング

7月11日（水） NPO法人朝霞ぐらんぱの会
代表理事 千葉司（元JX役員）氏へのヒアリング

2つの方向性への視点

NPO法人 リぷりんと・ネットワーク

NPO法人 朝霞ぐらんぱの会

NPO法人 りぷりんと・ネットワーク

概要

2004年に発足したシニアボランティアによる**絵本の読み聞かせ**を通じた世代間交流プロジェクトである。

全地域を合わせると300名のシニアボランティアが読み聞かせ活動を実施。

ポイント

- ・ **参加シニアの9割が65歳以上の女性**である。
- ・ ボランティア養成の講座がシニアの脳トレになり、実際に脳が若返るというデータがある。
- ・ 自発的に絵本に触れなくなる**小学校高学年～中学生の子ども**が、絵本と触れ合う機会になる。
- ・ 参加児童の社会参画意識が上がる。
- ・ インストラクターの**養成**からシニアへの**研修**まで**プログラム化**されている。

NPO法人 朝霞ぐらんぱの会

概要

埼玉県朝霞市が**社会保険料の削減と子育て支援を目的**に開始したプロジェクトで、学校の季節イベントへの参加や勉強の手伝い、地域活動などを行う。
朝霞市の男性シニアのみが参加しており、現在の会員は40名ほどである。

ポイント

- ・自治体が始めたプロジェクトからNPO法人へと移行した団体。
- ・教育委員会が認定済みのため、幅広い活動が可能。
- ・参加理由⇒ *** 定年まで職場と地域の往復のみであり、地域の繋がりが全くなく、友達が欲しい**
*** 若い時に子育てをしてこなかったことに未練がある**
- ・対価は貰っておらず、やりがいと終了後の飲み会が活力源。
- ・参加者はアクティブシニアである。
- ・高学歴かつ大企業出身者がほとんど。（JX、本田技術研究所、元大学教授など）

共同体寿命を延ばすためのポイント

自治体

意欲のある人が辞めたらなくなることを引き起こさないためにも、しっかりとした**組織による支援**が重要である。

プログラム化

ボランティアの活動、養成をプログラム化する。

報酬の有無

報酬を貰うと義務感が発生し、対等な立場ではなくなってしまう。ただし、その義務感が参加者を繋ぎ止める働きをする可能性がある。

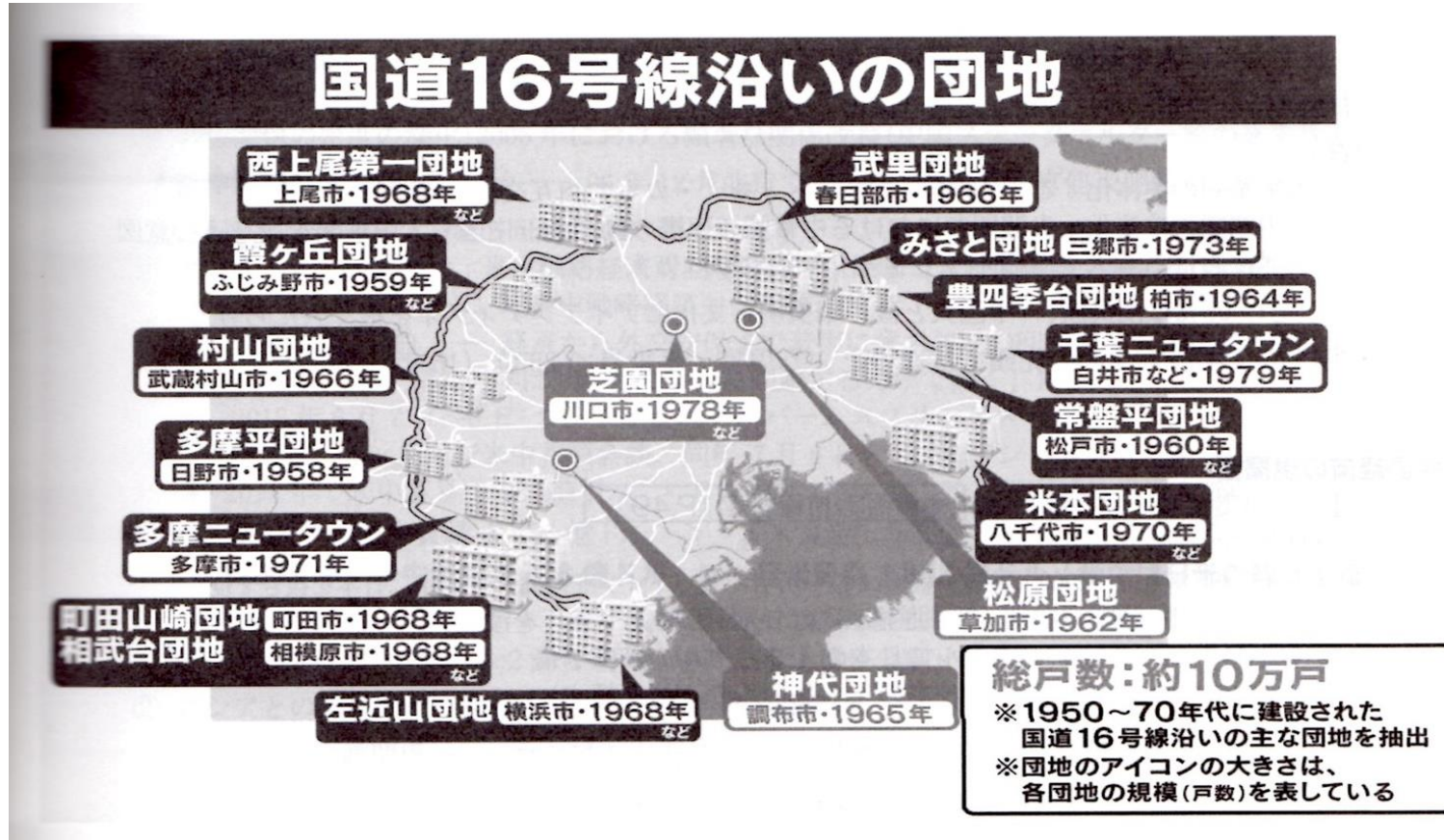
参加しているシニアの経済状況で違いが出る。

宣伝

コミュニティを存続させるには、**家族や仲間など世代を超えた共有**を生み出すような宣伝の仕方が必要である。

国道16号線沿い団地群を注目

今年の研究でこの段階まで手が届くかは定かでないが、国道16号線沿いに存在する団地群にも注目していく。



朝霞ぐらんぱの会への聞き取り調査のとき、「都市郊外型の課題は同一であるため、横展開をしていく場合は協力をしたい」という声があった。

コミュニティ班の今後の方向性

文献などを通じて他のコミュニティの事例や論文を整理し、アクティブシニアを対象にした都市郊外における持続可能コミュニティをどのように形成していくかを考える。



多摩地域（国道16号線沿い）への提案という形も視野に入れたい。

4. 視点3:ワーク班の 研究進捗状況

ワーク班の進捗状況

リサーチクエスチョン

高学歴アクティブシニアが働きやすい就労環境とはどのようなものか



文献調査の実施

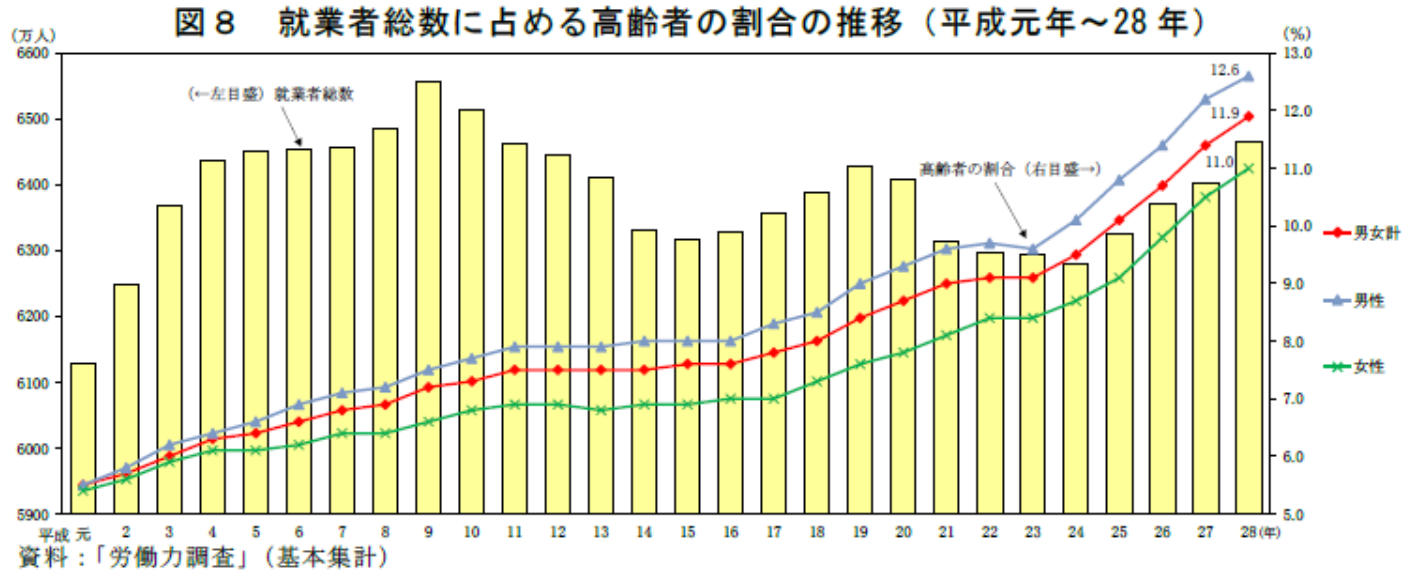
内閣府の高齢化白書の調査
総務省統計局の労働力調査



フィールドワークの実施

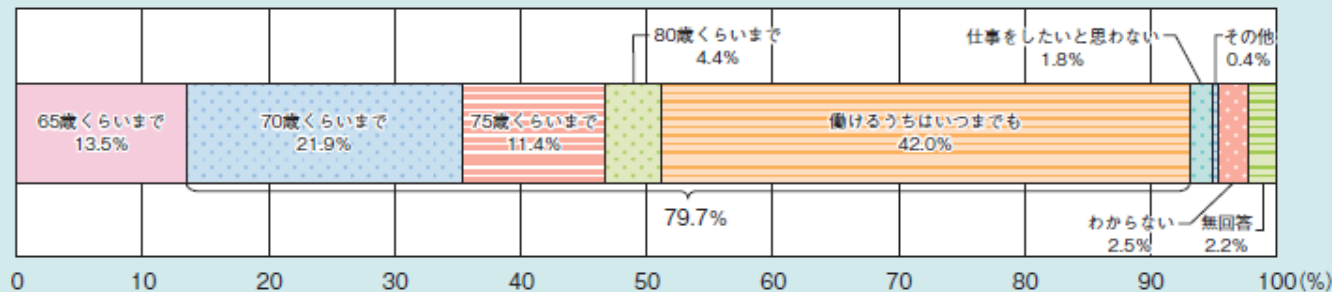
高齢者就労支援で定評のある「キャリア社」とのディスカッションを実施

文献:シニア就業の現状 (高齢化白書・労働力調査より)



現在の労働人口の推移を見て、高齢者の就労比率を見ると、過去最高の**11.8%**である事が分かった。

図1-2-1-17 あなたは、何歳頃まで収入を伴う仕事をしたいですか



資料:内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」(平成26年)
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女。現在仕事をしている者のみの再集計。

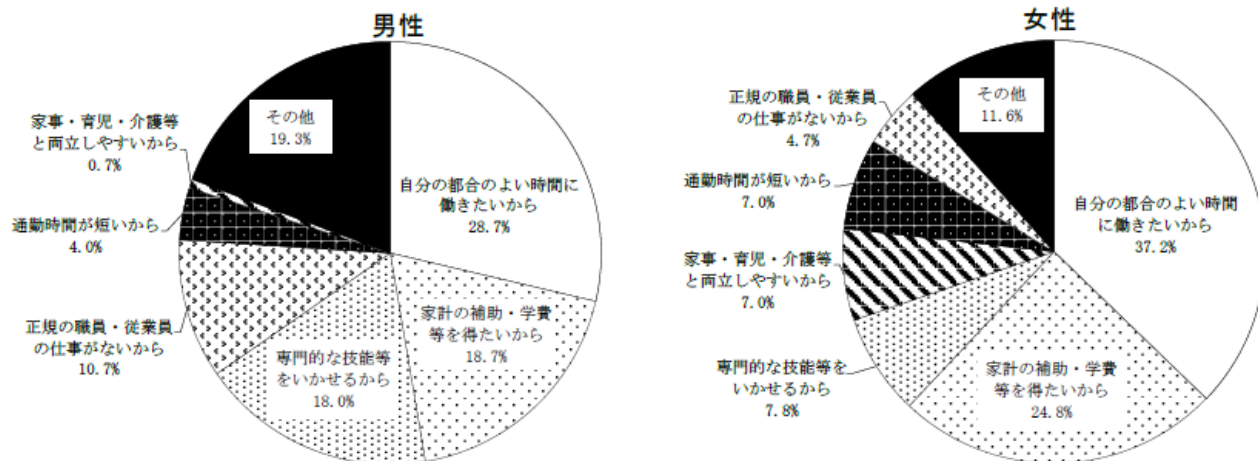
それに伴い、いつまで働きたいか、という問いに対して、**42.0%**が働けるうちはいつまでもと回答している。また、70歳以上になっても働きたい、と答えている割合は**80%**近い数字を出している。

文献:シニア就業の現状 (高齢化白書・労働力調査より)

現在の高齢者の就労形態は、7割強が非正規雇用であることが分かる。

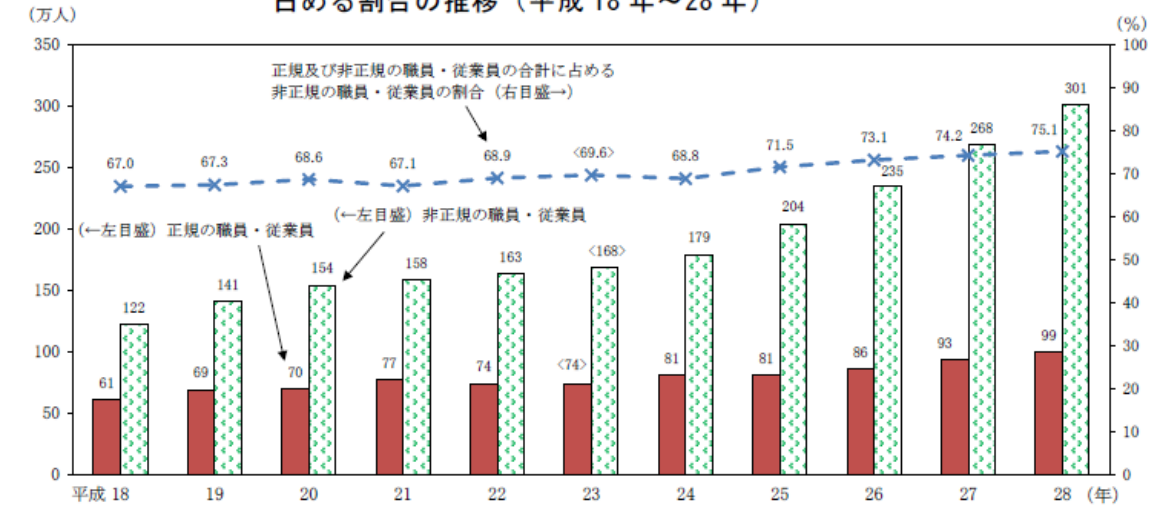
しかし、非正規雇用を選んだ理由を見ると、「自分の都合のよい時間で働ける」が25%以上であり、正規の仕事がないからの理由は低くなっている

図 11 非正規の職員・従業員の高齢雇用者が現在の雇用形態について主な理由別内訳 (平成 28 年)



資料:「労働力調査」(詳細集計)
注)割合は内訳の合計に占める割合

図 10 雇用形態別高齢雇用者数及び非正規の職員・従業員の占める割合の推移 (平成 18 年~28 年)



資料:「労働力調査」(詳細集計)

高齢者には就労に関する多様なニーズがあるが、現在の高齢者就労形態ではこれらを満たす事が出来ていないと考えられる

Field Work: 株式会社 キャリア

概要 今年で10年目を迎え、シニア就労が一般的でなかった時からシニアワーク事業とシニアケア事業を行ってきた、「**高齢化社会に特化した人材サービス企業**」。企業とシニアとのマッチングを行っている。

ポイント

【課題】

- ・介護等の事情により、**働き方に制約**があるケースも
- ・給与よりも**環境を重視**の傾向も

シニア就労の多彩な実績

シニアの
特性を理解

業務フローの
分析・改善ノウハウ

【課題】

- ・シニア雇用の**経験が少ない**
- ・シニアに関する**ステレオタイプな偏見**が残る

年金+給与で生活向上
社会とのつながり



コストの削減
シニアは離職率が低い
採用難からの脱却
必要な時だけの雇用

【働く理由】

10年前: お金(100%)

今: お金(50%)、**社会との繋がり(30%)**、**使命感(20%)**

シニア活用コンサルタント

- ・10年の実績からシニアが活躍できる**働き方を提案**
- ・企業側とコストメリットで握り、**雇用環境の調整**を行う

【雇用ニーズ】

10年前: 軽作業(100%)

1年半前: オフィス系(50%)、軽作業(50%)

今: **オフィス系(65%)**、軽作業(35%)

ワーク班の今後の方向性

FWか
らの
示唆

- ・ シニア就労ではそれぞれの状況への「理解」と「共感」が重要
- ・ シニアの働き甲斐が多様化する中で、職種等の拡大や、ボランティア/NPO等の就労以外の選択肢を提供する事も重要に



文献調査でのシニアの就労意欲の増加、株式会社キャリアとの話し合いによって分かった、企業とシニアのマッチングの現状から、さらに深掘りを行い、リサーチをしていく予定である。

FW予定

多摩市健幸まちづくり推進室

多摩シルバー人材センター

5. 視点4:ファイナンス班の 研究進捗状況

ファイナンス班の進捗状況

リサーチクエスト

人生100年時代を生き抜くための収支計画とはどうあるべきか



フィールドワーク先として金融ジェロントロジーの先行研究を行っている野村資本市場研究所へヒアリング調査を実施

ヒアリング状況と、ファイナンス班の今後の方向性

ヒアリング内容

- ・ 生命寿命、健康寿命に加えて、資産寿命を伸ばし、寿命と資産寿命（資金面の制約なく生活できる期間）の差異を可能な限り縮めることを重要視
- ・ 現役時代から将来を見据えて資産を築いていく必要性
- ・ 金融リテラシーの向上が必要



- ・ 高齢者のみならず学生や現役世代へ、資産寿命を伸ばしていくための金融リテラシー向上に向けた教育の必要性を考え、金融リテラシー教育を行っている金融機関や大学の先行事例など調べていく
- ・ 多摩学の金融ジェロントロジーでは、多摩地域に住むインテリジェントシニア等、生活に多少ゆとりのある高齢者の金融資産の活用について、生きがいにつながるような用途はないかを検討していく

6. 多摩学研究状況の纏めと 今後の方向性

多摩学2018の研究進捗状況

リサーチ
クエストヨン

100年時代を幸せに過ごす社会システムの要件とは

研究から見えて来たフレームワーク

活動的フィジカルの維持

コミュニティー
を通じた
社会参画

ワーク
を通じた
社会参画

生活を支えるファイナンスの活用

多摩学の今後の方向性

【寿命を延ばしたくなる「目的」の明確化】を仮説とし、ワールドワーク，文献調査より最新の情報を入手する。
そこから見えてくる実態から現在の仮定への結論付け、まとめを行う。

今後のスケジュール概要

8月・9月

ヒアリング調査実施及び
文献調査

10月

先行調査整理
及びヒアリング先の調査報告書作成

11月・12月

調査のフィードバック
及び
最終確定

年内

論文執筆開始

7. 文献リスト

ジェロントロジーの領域は環境変化が激しい為、書籍のみならず、各種最新レポートや記事等の調査により研究を深める

N	発行元	発行年	Issue	発行月	発行日
1	IOG	2009		2010/3	IOG
2			NL	2010/4	
3	IOG	2010		2011/3	IOG
4	IOG	2011		2012/3	IOG
5			No.389	2012/4	FR
6				2013/12	IOG
7				2013/12	
8	IOG	2012-2013		2014/3	IOG
9		75	NIRA No.11	2014/9	NIRA
10			NIRA No.64	2015/1	NIRA
11				2015/2	IOG
12			No.424	2015/3	FR
13			No.9	2015/3	NIRA
14	Web			2015/3	
15				2015/5	IN
16				2015/8	
17			NIRA No.18	2015/10	NIRA
18			No.20	2016/2	NIRA
19	RISTEX			2016/3	JST
20	IOG			2016/3	IOG
21			WP-06	2016/10	SP
22			Ver.2	2016/10	SP
23			LIFE SHIFT	2016/10	
24		100		2017/2	

N	発行元	発行年	Issue	発行月	発行日
25	IOG			2017/3	
26				2017/4	
27			WP-08	2017/4	SP
28			WP-09	2017/5	SP
29	Web			2017/6	SP
30			WP-10	2017/6	SP
31	Web			2017/9	SP
32			WP-11	2017/9	SP
33	IOG			2017/11	IOG
34				2017/12	
35	Web			2017/12	SP
36	IOG			2018/4	IOG
37	Web			2018/4	
38	Web			2018/4	
39	Web			2018/4	
40				2018/5	
41				2018/5	
42				2018/5	

